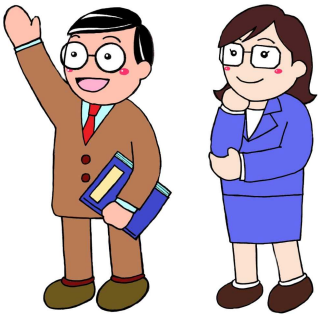
アキタラクティブ　アイ

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で深い学びのために～

社会，地理歴史，公民編

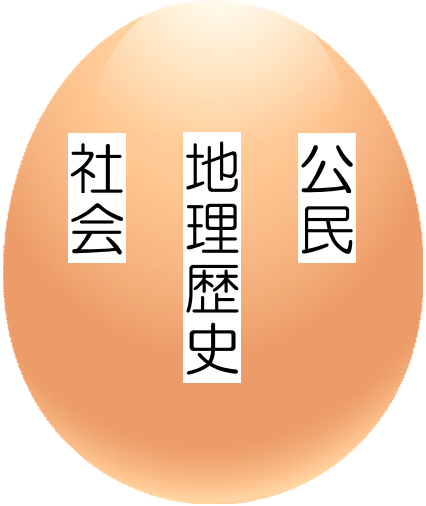


秋田県総合教育センター

2019.10.10

学びの出発

これまでの学びを振り返り，学びの中での気付きを手掛かりに新たな学びが始まる。



キーワード

課題意識

1　わくわく授業をするために

◇資質・能力を焦点化する

単元の学習の中で，育成したい資質・能力を明確にし，具体的な方策を考えましょう。

例）

中学校地理的分野の例

育成したい資質・能力

複数の資料を比較して，必要な情報を読み取り，まとめる力

↓

具体的方策①

二つの都市の雨温図を比較し，地理的背景の違いに気付かせる

↓

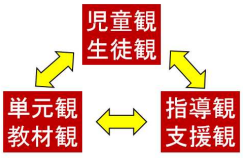
具体的方策②

個人で考察したり，まとめたりする時間を十分に確保する

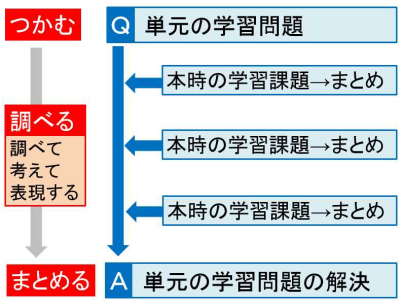
◇入念な教材研究をする

子どもの実態を十分に把握した上で，小中高の校種を通して，関連する学習がどのように展開されるのかを捉え，学習内容や資料等を分析し，それらを効果的に学ばせるための指導方法を具体的に構想しましょう。

教材研究の基本イメージ



問題解決型の単元構成例



Akitaractive Eye
主体的・対話的で深い学びのために　vol.01

2 3 学びをつなげるために

◇教科等の特質を踏まえる

実物，施設見学，新聞記事，図表，地図，写真等を通して，目に見える社会的事象の「事実」から，見えない社会の「概念」を捉えさせましょう。

例）

「事実」から「概念」をつかませる

「概念」 販売の仕事は，消費者の多様な**願い**を踏まえ売り上げを高めるよう，**工夫**して行われている。

「事実」
- スーパーはお客様が新鮮な野菜を購入できるよう地域の野菜を販売している。
- スーパーはお客様が安く購入できるよう輸入品を販売している。
- スーパーはお客様が見付けやすいよう関連商品を近くに並べている。
- スーパーはお客様が取りやすいよう高さを工夫して並べている。

◇子どもの声に耳を傾け受け止める

探究の各過程において，子どもの考えを引き出し，その後の授業に生かしましょう。

例）

一人一人の気付きや問いをつないで，みんなの問いにする

↓

予想することで，問いを自分事にする

↓

子どもと共に学習の構想を立てることで，見通しをもたせる

○どんなことを調べればいいか？
○どのように調べるのか？
○どのようにまとめればいいか？

→ 主体的な学びへ！

4 新たな学びを出発させるために

◇適宜,振り返る場面を設定する

探究する過程の中に，適宜，振り返る場面を設定しましょう。

例）

これまでの学習が生かせないかな？
実生活と比べてみたらどうかな？
立場を変えて考えてみたらどうかな？
資料には別の読み取り方はないかな？

予想の根拠は十分かな？
予想はこれでよかったのかな？

◇課題づくりの場を設定する

事象との出会わせ方を工夫し，子どもと共に学習問題（課題）を設定しましょう。

例）

1943年（昭和18年）　1964年（昭和39年）

↓

場所はどちらも **国立競技場**

20年しかたっていないのに，なぜ日本はオリンピックを開くまでに発展したのだろう。

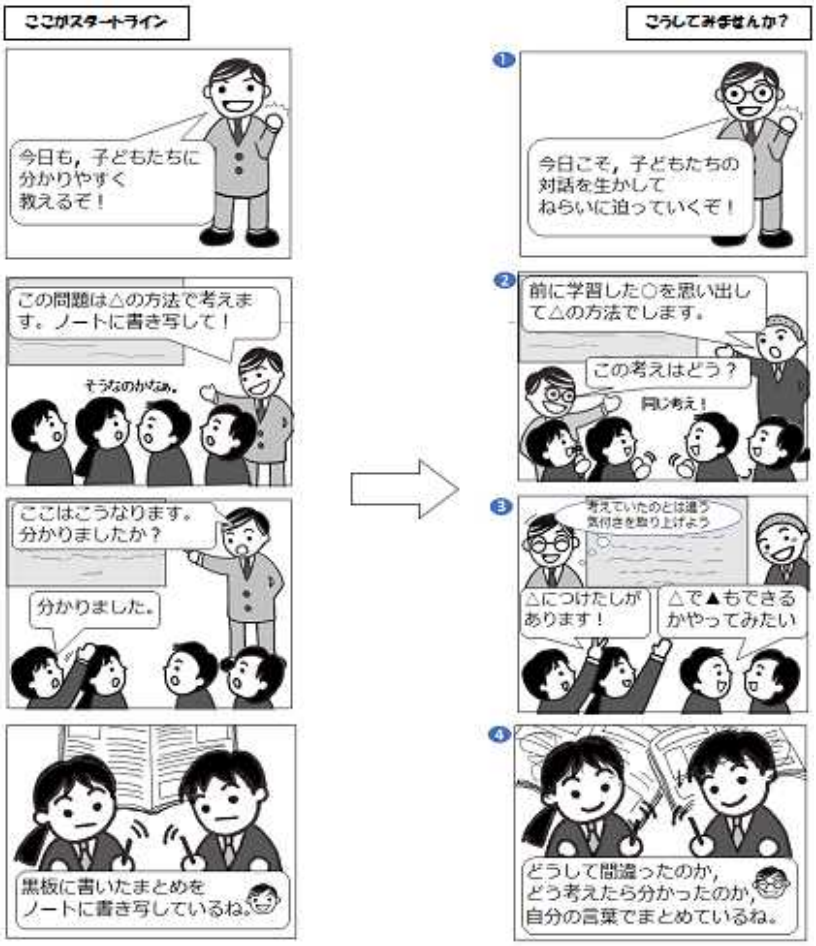
【問い方の工夫】
「どのような」と「なぜ」は，学習問題（課題）の基本的な問い方ですが，「どのような」は社会的事象を大きく捉えさせたい場合に，「なぜ」は入口を狭くして，より強い探究心を引き出す場合に有効です。
常識的に捉えていたことを覆し，強い探究心を生むために，学習問題を「～のに，なぜ～？」で設定することも効果的です。

学びの再思考

互いの考えを伝え合い，相手の考えを受け止め，自分の考えを練り直す。

キーワード

着目させる視点
考える方法



1 ねらいに迫る授業をするために

◇学習活動を吟味する

ねらいに迫るために，適切な教材・教具，学習形態，言語活動，場の設定等を選択して，学習を効果的にデザインしましょう。

例）

教材・資料
- 多様な解釈を生む資料
- 見せたい情報が焦点化された資料
- まとめまで生かせる精選された資料　等

言語活動
- インタビュー
- 説明，感想発表
- 質疑応答，意見交換
- 論述
- レポート，新聞作成　等

学習形態
- 個
- ペア
- グループ
- 一斉　等

場の設定
- コの字型，V字型
- 教師の立ち位置
- ICT機器の設置場所
- ホワイトボート　等

◇効果的な学習支援を考える

子どもの反応を事前に予想し，効果的な支援を準備しましょう。

例）

小学校第6学年・歴史学習の例

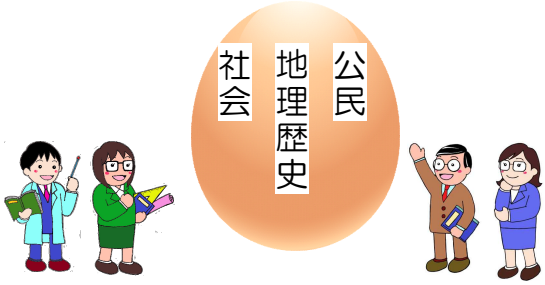
全体への支援
○学びの深まりを促す
「教科書や資料集には，どのような資料が載っているかな？」

全体への支援
○協働的な解決を促す
「友達と意見交換をして，より良い考えを探ってみよう。」

20年しかたっていないのに，なぜ日本はオリンピックを開くまでに発展したのだろう。

○解決の準備を促す
「後で，考えを発表してもらうから，根拠をまとめておいてね。」
理解の早い子どもへの支援

○既習を生かすよう促す
「時代が大きく変わる時には，どんなことが行われてきたかな？」
時間が掛かる子どもへの支援



Akitaractive Eye

主体的・対話的で深い学びのために　vol.02

2　「見方・考え方」が働くようにするために

◇これまでの学習を踏まえる

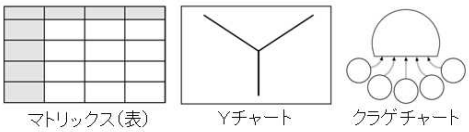
生活経験やこれまでに学習して得た知識や技能を生かして，社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できるよう配慮しましょう。

多面性…社会的事象自体がもつ様々な側面
多角性…社会的事象を捉える様々な角度（立場）

◇多様な展開を考える

言語活動を工夫したり，思考ツールを活用したりするなどして，社会的な見方・考え方を働かせるような仕掛けを工夫しましょう。

例）思考ツール



【社会的な見方・考え方】
社会的な見方・考え方とは，課題を追究したり解決したりする活動において，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察したり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想したりする際の**視点**（時間・空間・相互関係等）や**方法**（比較・関連付け・総合等）です。

3　気付きを生かした展開にするために

◇子どもの思考の流れに沿って展開する

板書やノート，学習シート，ホワイトボードなどを活用し，子どもの思考を広げたり，思考の流れを整理したりして「見える化」を図りましょう。

◇想定外の反応にも柔軟に対応する

子どもの想定外の反応から，その後の学習を再構築しましょう。修正が必要な場合や，考えが深まらない時には，気付きを促しましょう。

【気付きを促す問い返し】
子どもの考えが十分に深まらない時は，ねらいに迫らせるために，気付きを促す問い返しをしましょう。
例）「いつから行われているのだろう？」　「どこで，見られるのだろう？ 」
「誰が行っているのだろう？ 」　「原因は何だろう？」
「なぜそこに集まっているのだろう？」　「どのように広がっているのだろう？」

4　問題解決における一連のプロセスを重視するために

◇子どもの試行錯誤を大切にする

子どもが活動や思考に没頭できる時間や環境を保障し，教師は必要以上に出過ぎず，子ども主体の学びの過程を大事にしましょう。

◇獲得した学びをまとめる場を設定する

自分の予想や探究活動，意見交換などを踏まえて，分かったことや考えを自分の言葉で再構築してまとめさせましょう。

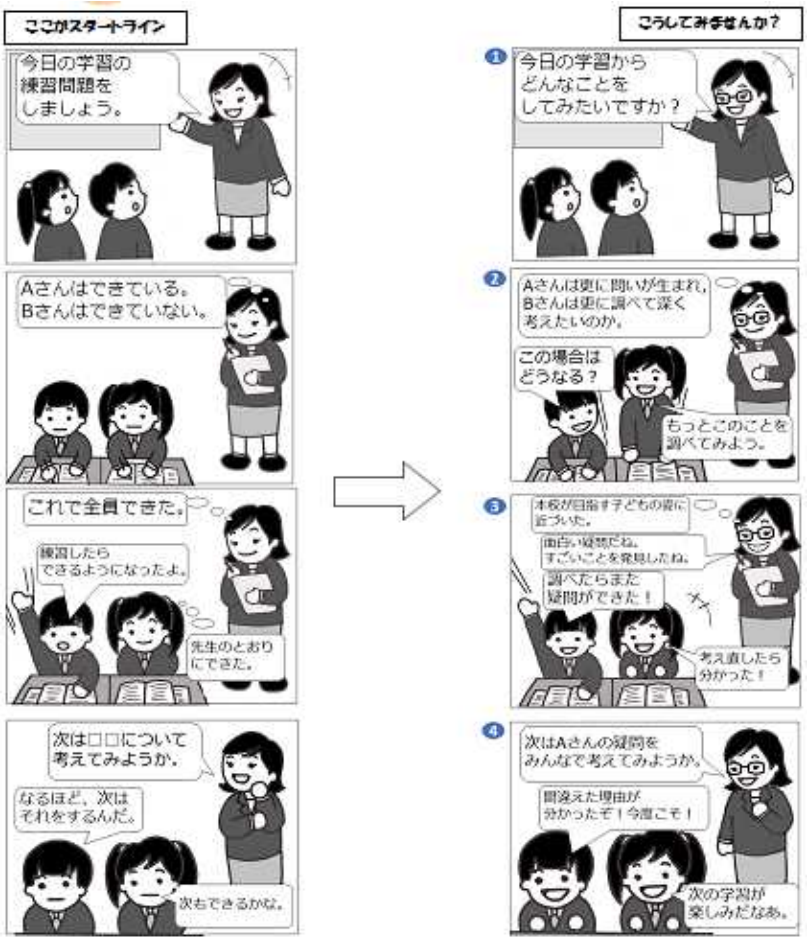
【言語活動の充実】
子どもの実態を考慮し，ねらいに合う適切な言語活動を単元や授業に計画的に組み入れましょう。
例）考察した内容の論述，論理的な説明，立場や根拠を明確にした議論，調査内容の発表，意見交換，質疑応答，インタビュー，ディベート，パネルディスカッション，レポート等

学びの獲得と
新たな学びの創出

連続する学びは力へ。
新たな学びの獲得と新たな学びを創出する。

キーワード

社会参画



1 活用・発揮を促すために

◇学んだことが生かされる場面を設定する

学習したことを基に，複数の立場や意見を踏まえ，よりよい社会の在り方や社会への関わり方を選択・判断する活動を取り入れましょう。

例）

〔「自分が市長になったら」の記述の一部〕

・もし自分が市長になったら，産業振興を進め，若者が安心して働ける職場を増やしたい。具体的な施策としては…。

〔「地方自治」の学習後の討論の一部〕

・これからの地方自治で最も大切にしなければならないのは，福祉と教育だと強く感じるようになった。なぜなら…。

◇本時の振り返りから課題を引き出す

「振り返り」の中から，次の学習につながる新たな問題を発見し，次の学習に生かせれば子どもの主体性は高まります。「私の問い」を「みんなの問い」として，学習の流れを再構成しましょう。

例）

まとめ＝構造化された知識

自治体にも首長と議会の二つの機関による代表民主制の仕組みがあり，地方自治は住民により支えられている。

↓

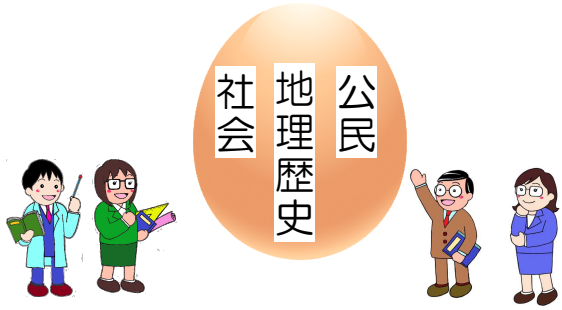
振り返り＝新たな「私の問い」

自分にできることは，何だろう？

↓

次の課題＝新たな「みんなの問い」

住民自治に関して，中学生でもできることはないだろうか？
（討論会）



2　学びを見取るために

◇評価方法を検討する

単元計画で設定した評価場面では，評価規準に基づいて，ねらいを達成した子どもの姿を，具体的にイメージできるようにしておきましょう。

例）まとめの記述を評価する場合
・一単位時間ごとのねらいに対するまとめとして，「おおむね満足できる」状況（Ｂ評価）の生徒の具体的な記述例を，評価のポイントや必要な用語を明らかにしながら，あらかじめ教師が考えておく。

◇授業プランを修正する

進めている学習の内容と，実際の子どもの学びの様子との間にズレが生じたら，途中でも修正を加え，ねらいを達成するために授業の再構成を図りましょう。

例）
・子どもが全員同じ予想を立てたので教師はあえて別の視点を与え，子どもの思考を揺さぶる。
・単元の学習が進んでも，思っていたように子どもの興味や関心が高まらないので，次の時間の中心資料や学習問題を入れ替える。

【指導と評価の一体化】
学習評価を通じて，学習指導の在り方を見直すことや，個に応じた指導の充実を図ることが重要です。

3　学びの実感を促すために

◇子どもの変容を取り上げる

ネームプレートやミニボードなどを活用するなどして，誰がどのような考えをもっているかや，考えがどのように変化したかなどを，みんなで確認し，構造化を図りましょう。

◇フィードバックして働き掛ける

学びの成果を発表する場を設定し，子どもたちが気付きを広め合い，互いの成長を認め合えるようにしましょう。

4　新たな学びを創り出すために

◇学習全体を振り返る場面を設定する

問題解決の過程を振り返り，成長の自覚を促す場面を設定して，できるだけ子どものよさを見付け，伸ばしていけるように励ましましょう。

◇新たに学びが連続するようにする

常に現代的な諸課題や日常的な社会との関わりを意識させ，問題解決の過程を通して人々の願いや工夫等に気付かせ，人の姿や生き方を大事にする学びのサイクルで，主体的に学びに取り組む態度を育みましょう。

【まとめと振り返りの違い】
「まとめ」は，学習問題に対する答えになる内容で，基本的に一つの学習問題に対して一つ，一単位時間ごとに必要です。
「振り返り」は，育成したい資質・能力に関連する視点を設けて，必要に応じて単元の中に位置付けます。

Akitaractive Eye

～主体的・対話的で深い学びのために～